

令和6年度策定 大和地区社協行動計画書

大和地区社会福祉協議会

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
つなぎ・拡げる地域ネットワーク力の大和地区	地域で支え合い安心して暮らせるまち	高齢者	高齢者の孤立・孤独死を防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでおり、施設入所、病気入院などで対応が難しくなっている ・一人暮らし高齢者世帯の増加（R6自治会加入世帯799世帯・97世帯） ・一人暮らし高齢世帯の近隣での見守り ・自治会長も1年交代のため、連携の難しさ ・地域役員のなりて不足と高齢化問題 ・高齢世帯のみの場合、近所との交流厳しい世帯ある ・一人暮らしの高齢男性（地域との交流が少ない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人が仲良く声掛け 社協役員での見守り訪問活動（月1回）での状況確認 ・高齢者の交流の推進・地域行事。サロンへの参加呼びかけ <p>お達者コール活動（8町内）は、毎週1回 高齢者孤独死を防ぐために実施。（ワン切り電話一担当確認一電話ないときは担当者が自宅へ確認）</p> <p>・生活支援サポート活動（有料）を通しての見守り。</p> <p>・認知症への理解を深めるためセンター養成</p> <p>・地域で役職経験者の方を地域福祉センターとしてお願いする。（登録）</p> <p>・毎朝地区中心の公園で、自由参加でのラジオ体操を実施。コミュニティーの場となっている。</p> <p>・地区的中心に大和地域コミセンあり。歩いて参加可能なため高齢者の方の行事への参加呼びかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健康講座（年10回）への利用者拡大（年間講座一覧表を全戸配布） ・実施している生活支援サポート（有料）の活用の拡大・町内担当者がサポートしているため顔の見える交流活動となる高齢者の変化や状況の把握活動。
			認知症高齢者への理解			<ul style="list-style-type: none"> ・どこシル伝言板の推進 啓発啓蒙活動の実施（認知高齢者のSOSネットワーク） ・地域で役職経験者の方を地域福祉センターとしてお願いする。（登録）
			高齢者の健康体力維持の問題			<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健康講座を多種項目を開催。対象者の関心ある講座を開催していく
		障がい児・者	精神障がい者等への声掛けが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題あり、情報がなかなかえられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族、ささえりあ等施設との連携、情報交換 ・自治会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協開催のお楽しみ会・年1回8月開催（高齢者と子どもたち・障がいをお持ちの方など参加）呼びかけ・一緒に参加。地域で顔の見える交流会
			地域で把握しにくい、対応の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者への理解がまだまだ足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月民生委員・社協での見守り訪問実施中。家族との交流推進 	
	るこまどもの安全・笑顔を支え	子ども・子育て	働き方が多様化し、共働きが拡大している	<ul style="list-style-type: none"> ・1町内は子ども会がないので活動に消極的で地域の活動に参加しない（加入率も約50%・地域の子ども達の様子がわからない） ・子どもへの指導が難しい ・次世代との接点があまりない ・大人と子どもの交流する機会があれば良いと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たち、保護者への働きかけ、地域活動への意識を高めてもらう ・子どもと顔の見える関係を作り信頼関係を作る ・子供会・大和塾のPR、広報紙作成し、活動の様子をつたえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員（社協役員）との訪問活動
			地域の中でどう育っていくか	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の子どもの居場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンの空き部屋の活用（子どもの居場所作り） ・大和塾等の体験型学習へ参加声掛け ・子どもが安全に遊べる公園を地域住民で整備・推進されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市へ要望書提出中
	支地えなるまちトワークで	災害・防災	大和の地域特性上、防災意識が他の校区と比べると低い	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会からの情報発信の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線の問題は長年の課題。地域での確認・声掛けの実践（自治会で震災訓練年1回実施、福祉班として活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治協・社協でもグループLINE連絡活用拡大。
			防災無線が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者含め初期対応ができにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難できない方への安否確認の実施（玄関先にタオル）要援護者の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者（特に一人暮らし世帯）へのLINEの使い方
			ボランティア精神の欠如	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所でのコミュニケーションが少ないところも増えてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・大和全体での避難訓練の実施。防災において近所関係づくり 	
		その他		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会がない町内あり、活動に消極的で地域の活動に参加しない ・次世代との接点があまりない ・大人と子どもの交流する機会があれば良いと思う ・高齢化もあるが、地域役のなりて不足の問題は大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と次世代への引継ぎが上手く行っていない 一斉清掃時に声掛け、ゴミ袋の配布など町内コミュニティ活動推進 ・地域の担い手の育成、次世代の考え方を尊重しさせてみる ・町内自治会を役所任せではなく、身近なものにするため町内で座談会を実施 ・自治会活動をもっと知ってもらうためのPR推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との交流活動の実施